

同窓会報

旭川工業高等専門学校同窓会

2004 July.

2004年6月30日発行
旭川工業高等専門学校同窓会
会報編集委員会

〒071 8142 旭川市春光台2条2丁目
TEL.0166 55 8000(代)

同窓会ホームページアドレス <http://kyokusen-dosokai.jp>
印刷:(株)みらいプリンティング

法人化に伴う旭川高専の今後について

教務主事(副校長) 秋山俊彦

ようやく初夏のような陽射しが感じられる今日この頃ですが、同窓生の皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

さて、既にご承知のように、本校は4月1日から独立行政法人国立工業高等専門学校機構法に定められて設置された全国55国立高専の1校としての法人となりました。

高等専門学校の目的・役割そして現状を踏まえると、以下のような高等専門学校の個性化、活性化、教育研究の高度化という観点から、法人化の意義・期待される効果には極めて大きいものがあります。

個性化

組織、予算、人事等の面で各高専の裁量を大幅に拡大した運営の多様化、個性化を推進できる。特に地域社会のニーズ等を踏まえた独自の個性の伸張が可能となる。

活性化

学外者の参画による民間的発想の経営手法の導入と、教員の教育・研究業績評価とインセンティブの付与による活性化の推進が可能となる。

教育研究の高度化

第三者による評価結果に基づいた重点的資源配分と

競争的環境の醸成による教育研究の高度化を推進できる。

今後は、このような期待に応えるべき努力が求められます。特に個性化の推進については、「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して研究を実施、及びその他の機構以外の者との

連携による教育研究活動を行うこと」と規定されており、地域社会あるいは同窓会との連携推進が重要となります。また、「自己点検評価の実施と結果の公表、及び外部機関による認証評価を受けること」と学校教育法に明確に規定されたことから、学校の管理運営、教育研究等の活動全般について外部機関による認証評価が実施されることとなります。

法人化に伴う状況について簡単に申し上げましたが、今後は本校の取り組みが社会から「評価」の目で見られることとなります。学校運営に対する同窓会のこれまでのご支援に感謝申し上げますと共に、今後の更なるご理解・ご協力をお願い申し上げます次第です。



先端メカトロニクス国際会議'04旭川で開催

本年10月3、4、5日に旭川高専制御情報工学科、古川先生が実行委員長となり、旭川で開催されます。5日には、ロボットフォーラム'04が一般市民に開放されます。

最先端メカの実演、講演などが予定されています。母校旭川高専がロボコンで全国優勝するなど、ロボットが市民に身近に感じていただけるとおもいます。同窓生の皆さん是非応援してください。詳しくは下記のホームページへ

<http://licam04.asahikawa-nct.ac.jp/>

ロボットフォーラムは同窓会のホームページに8月に載せます。



ロボコン2003 2度目の全国制覇

“教師冥利”同窓生主催の 出版祝賀会



木村先生と古村旭川支部長

名誉教授 木村光夫

早春の3月23日（火）（私の77歳の誕生日の翌日）、午後6時30分から旭川の花月会館で私の3冊目の単行本の出版記念パーティーが開かれました。もっと厳密に言えば、「開いていただいた」のです。会場正面には、ドンと次のような看板が貼ってありました。

旭川高専名誉教授 木村光夫先生

新著「旭川家具産業の歴史」の出版を祝う会

この本は私の3冊目の単行本で、結果的には前2冊は試作品となり、今回の著書は一応これまでの研究の総決算のつもりでまとめました。これは旭川中央図書館の慣例事業の一環で、「旭川叢書第29巻」にあたります。本書のための研究は、昭和38年（1963、高専赴任の翌年）から取りかかり、旭川の家具業界や市役所の方々はもちろん、道内都市や日本全国の家具産業都市、そしてドイツや北欧の家具工場を調査見学し、多くの人々のご指導の結果として誕生したものです。

ですから私の方でお礼の会を開き、皆さんを招待するのが筋なのです。平成11年の前著『旭川木材産業工芸発達史』の出版のとき、出版記念パーティー開催が話題になりましたが固く辞退しました。しかし現在山形在住の私に、「一切まかせて、僕らが企画し手配するから」の話でついホロリとなり、この教師冥利に尽きる話をお受けすることにし、この旭川在住高専卒業生有志主催の「出版を祝う会」と相なった次第です。

会の準備は平間順一さん（3期E）を中心に涉里義照さん（14期C）・内田和博さん（23期C）らが労をとってくれたようで、当日の司会は平間さんが実に上手にやってくれました。参加者は業界・市役所・学界・友人27名、高専卒業生16名その他総勢50名のささやかな会でしたが、やさしい同窓生はもちろん、参加者は私の気心の知れた友情に満ちた誠実な方々の集まりでした。気配り溢れる平間さんの名司会もあって、会は終始楽しく賑やかに進行、私のこれまで経験した出版記念パーティーとは大変異なり、皆さんから「良かった、楽しかった」のお言葉をいただきました。お陰様で私の人生の思い出にすばらしい11ページを加えることができ、卒業生の皆さんに厚くお礼申し上げます。なお高専の旧同僚では竹内訓先生（英語）・白井暢明先生（ドイツ語）・平野友彦先生（歴史）のご参

加をいただきました。

最後に私の近況を報告します。平成6年ウチの女房が、孫娘の面倒をみるため山形市に転居、私は旭川に取り残され、旭川市史編集委員の傍ら、大学・高専の講義をしたり、これまでの研究をまとめたりしておりました。同10年旭川を去り、編集委員の仕事を手形に持ち込み、年数回旭川を訪れて資料採集や編集業務を継続しています。出版祝賀会には女房と孫娘も参加しました。ドサン子の私は、旭川と北海道が恋しくて、脱山形・北海道移住の機会をねらっております。長生きすれば、いろいろなことを経験する機会をもてます。お互いに希望をもって、生き抜こうではありませんか。卒業生の皆さんの人生に心から乾杯を贈ります。

楽しんで想像すること

（元物質化学工学科 教授）熊川善紀



還暦祝いにて

大学院生であった頃、昼間実験をして身体を動かしてデータ採りをし、夕食後研究室の他のメンバーが皆帰って独りになって、

夜遅くまで残って海外の学術誌を調査しながら自分の仕事内容を考えていた時、やや疲れを感じながらも充実感に浸っていたことを思い出す。

いろいろな学術誌で世界各国の研究者の論文を調べていると、この地球上の各地にあるいろいろな研究室で、同じように研究に取り組んで考えている人々がいるのだとの思いが強く、日本の北の片隅の研究室にいても世界と繋がっているのだと感じて、妙に高揚した気分になった。

その頃、1960年代中頃は、海外旅行など一般の人にはとてもとても夢であったから、偶にテレビで見る海外の各地の風景は珍しかったし、地誌の本で海外の風景や人々の生活を紹介した写真などを眺めては楽しんでいた。

こうして偶に得られる映像と学術雑誌で発表される論文の著者の生活地とを結びつけては、その地にある大学や研究室の情景を自分なりに思い描いて楽しんでいたのである。

日本の経済力が強くなったおかげで、海外旅行が自由にできるようになり、多くの人々が世界の各地を旅行するようになったし、テレビでも紀行番組が数多

く放映されている。自宅にいても、世界各地の人々の生活や催しや文化事業なども見ることができる。私も旅行して何れ所か楽しみながら巡ってきた。帰って来てからも時々思い出したり、話をしたりしながら旅行中のことを楽しんでいる。そして今時々、あの海外旅行が自由にできなかった時代、夜遅く研究室で学術雑誌の論文を調べながら、著者の生活地を思い描き、充実感を味わいつつ高揚した気分になっていたことを思い出している。

少ない情報から想像力を働かせて、自分が関心を持つ人々の生活や仕事、その地の自然や風景を思い描きながら楽しんでいたのである。実際に旅行し訪れた各地を自分の目で見て楽しいし、想像以上のことを実体験できるが、想像力を働かせていろいろ思い描くのも本当に楽しいのである。

きちんと確かめられた、土台になる情報があれば、その上にいろいろな発展した形を思い描くことが出来るのは、人間の想像力の賜であろうか。厳密な言葉で言えば、考察力とか洞察力とか想像力とか言うのかも知れない。

こうした想像力を楽しみながら働かせることが出来るのはどういう状態にある時なのであろうか。そんなことも考えたりしている。

(筆者は、昭和44年4月から平成16年3月まで35年間旭川高専に勤務させて頂き、多くの方々にお世話になり、多くの学生と付き合う機会を与えられて楽しく過ごさせて頂いた。)

退官に当たって

(元一般人文科 教授) 中 村 隆 彦



34年前、私がこの学校に採用されたのは、いわゆる学園紛争が全国を席卷し、本校でも全共闘運動に影響を受けた学生たちが、一時は学校を封鎖し、機動隊によって排除されたその直後のことでした。それまで大学の国文科で万葉集を研究していた私にとって、工業系の学校で教えること自体あまり考えていなかったことでした。ところが、大学院修了後の勤務先として私に提示されたのは、バリケードを築き、機動隊に向かって火炎瓶を投げつけた学生がいる学校だったのです。

さて、着任前の挨拶で本校を訪れたとき、当時の一

般科目主任(現在の科長に相当、一般科目は後に一般人文科と一般理数科に分離)から、新任の先生には申し訳ないが、2年生の担任を持って欲しいといきなり切り出されました。正直これはとんでもないことになったと心中では思いながらも、断ると採用されないかもしれないと考え引き受けることにしました。

封鎖は解除されたとはいえ、紛争はまだ終結していません。着任早々学校内で学生によるデモ事件が発生し、私のクラスからも無期停学者が5人も出てしまいました。まさに隔世の感がする出来事ですが、新任の私は、ただ日夜この学生達が一日も早く処分が解除され学校に出られるには、どのように指導すればいいのか頭を悩ます日々が続くこととなりました。

当時、本校学生運動の拠点が明誠寮だったこともあって、停学処分になった学生は全て寮生で、その指導のためにこの広い北海道のあちこちを飛び廻らなければならなかったことは大変でしたが、それ以上に困難を極めたのは、自宅謹慎をしている学生達にその誤りを納得させることでした。彼らは、いわゆる非行学生ではなく、当時の全共闘運動の連帯感を背景に、悪いのは国であり、学校であり、教師であるという確信を抱いていました。ただ、私が新任であり、まだ手付かずの関わり方ができたことが、少しはお互いにとって救いの部分であったかもしれません。

本校での教官生活のこのような始まり方は、その後の30年余の高専生活を象徴していたかと思われまます。初めの9年間は、中間の1年間を除いて担任業務が続き、定年前の9年間も一般人文科主任(現科長)2年、学生相談室長4年、学生主事3年と連続しました。

その最中であっては、授業だけに専念できる期間を渴望したこともありましたが、改めて考えますと、着任早々の試練は、大学とも高校とも異なる高専教育の在り方を根本から考え続ける原点としての貴重な体験となったことは確かです。また、定年を迎える前の1年間は、普通は公務免除になるのですが、定年の日まで学生主事を務めることによって、多少とも本校に貢献・寄与できることがあったとすればそれを喜びとすべきでしょう。

高専で過ごした日々は、トータルとしては楽しく、恵まれたものであったと感謝しております。なんといっても、教育の世界で生きることは、私が小学生の頃から目指していたものでしたし、旭川高専で私が接した学生の多くは、素直で真面目であり、校務においては、その時々と同僚の先生方に助けていただくことでなんとか教師生活を全うできたからです。本当に長い間色々ありがとうございました。

最後になりましたが、皆様の益々のご健康とご活躍を心から祈念申し上げます。

お久しぶりでございます

(元看護師) 山路和代

私は医務室に勤務していました看護師の山路です。随分長い間お世話になりましたがこの3月末をもちまして定年を迎え退職致しました。

在職中は皆様大変ご迷惑をかけたことと思います。私は感情がすぐ顔や声に出てしまい、いやな思いをされた方もいらっしゃると思います。ごめんなさい。

時々手にする同窓会誌をめくると、名前の次にお顔が浮かび、その陰にエピソードが湧き出てきます。やはり職業がらケガや病気で関わった学生は忘れません。

古くは見学旅行の引率、それも記憶では確か12日間?という今では考えられない長期間でした。更には毎日企業の工場見学が2~3箇所入っているという過密スケジュールでした。当然体調を崩す学生も多くなり熱でうなされている学生の頭を一晚中冷やしながら朝を迎えたこと。

またクラブ活動中やバイク事故による大きなケガなどでは後遺症が残ったりしていないかとおもい、明誠寮では

風疹や疥癬の流行、猛威を振るうインフルエンザに毎日テンテコマイだったこと、特に風疹の伝播力のすごさにはなす統べが無かったことなどが思い出されます。

定期健康診断も始めは簡単な項目でしたが徐々に眼科、耳鼻科、心電図などが加わり現在のような10項目健診になったのですが、受診率は最後まで100%になりませんでした、不思議に頑固に受診しない学生がいるのです。

さて、大好きな消毒の匂いあふれる医務室を去って3ヶ月になろうとしています。私の人生ではじめて仕事をしない毎日を送っています。はまりそうです。

では、皆様健康に留意され益々ご活躍ください。



「えっ!南極?」

物質化学工学科 助教授 古崎 睦



同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか? 私は平成7年に工業化学科の助手として赴任し、今年で10年目を迎えます。化学科教員というより野球部監督と言った方がわかって頂けるのかも知れません。この10年、「一生懸命」を振り所にただただ校舎とグラウンドを歩き来してきた私ですが、この度縁あって『南極』へ行くことになりました。「お前が何で?」とお思いの方がほとんどでしょうから、その切っ掛けや抱負なんぞについて拙い文を記したいと思います。

皆様もご存じのように、現在の前晋爾校長は「南極地域観測隊」としてこれまで3度南極へ赴き、昭和57年度の第24次隊では隊長を務められました(写真右から4番目)。先生のご縁でしょう、本校に「隊員募集」の書類が回ってきたのが02年の暮れ。翌03年1月、ある懇親会の席で「非常に興味があるのですが...」と切り出したのが事の発端です。

以後、雪氷に関する研究集会等へ参加するようになりましたが、私の研究テーマは「ホタテ貝殻の有効利用」。「ドームFのコア解析」とか「フィルムの圧密過程」とか言われても??? でした(今もって?? です...)。しかし、私の



能力の如何とは別なところでその後話が急速に展開し、飲んででも壊れない肝臓や落ち込んでもすぐに忘れる脳天気さで、厳しい健康診断や冬期訓練を突破してきました。もちろんその過程では、降って湧いた担任/授業/監督業の交代話で、多くの方にご迷惑をおかけしました。ゴメンナサイ...。

では、南極に行って何をやるのか? 南極地域観測隊はその仕事によって「観測」と「設営」の2つのグループに分かれ、また、観測船「しらせ」の停泊期間である2ヶ月間だけ作業をして帰る「夏隊」とその後丸1年を過ごす「越冬隊」に分けられます。私は気水圏系という部門で研究観測を行う越冬隊に属し、現在進行中の「ドームふじ深層掘削計画」に参画する予定です。これは、南極氷床の頂上に位置するドームふじ観測拠点において、3,000m深の氷床コアを掘削し、過去80万年以上の地球規模での気候・環境変動を明らかにすることを目的とした壮大なプロジェクトです。

これまで映像や書物の中でしか知り得なかった世界にこの身を置き、厳しくも美しい(であろう)大自然を目の当たりにしたなら、硬直化しつつある自分の人生観が根本から変わるのでは? とワクワク・ドキドキしています。「税金の無駄遣い」と言われたいよう、吸収した全てを帰国後の教員生活に役立てることを皆様にお誓いして、拙稿とさせて頂きます。「皆さん、行って来ます!(11月末ですけど...)」



『母校訪問期2004春』



3M 松田重雄

まず、自己紹介を。

私は卒業と同時に機械商社の(株)守谷商会に入社して計測機器・材料試験機の販売や、勤務先の君津・八幡で製鉄所設備などを担当して来ました。

7年程前にリストラの網に引っかかり、取引関係にあった輸入計測機器メーカーに転職し、現在に至っています。

最近、主力製品の「レーザースキャナー」を営業ツールとして、全国の研究機関・大学や測量会社訪問や、時折災害現場・遺跡発掘の現場などの計測に出発しています。

たいした趣味もないので、老後のボケが多少心配ですが毎年健康診断で医者からの「鉄の肝臓」とのコメントを頼り処に、「晩酌」は欠かすことなく続けておりまして、現在、東日本支部「じょうの会」常連です。

さて、4月中旬の日曜日、空路北海道入りした私はJR特急で旭川に向かった。

ひと月程前に、札幌での出張予定が浮上した段階から密かに計画していた「レーザースキャナー」と呼ばれる詳細な

地形や建物の計測出来るシステムを持参しての母校訪問のためである。まだ、雪が残っている山々を眺めながら、車内放送の「次は岩見沢～美瑛～砂川～滝川～深川・・・」なんとも響きの良いこと。 の出身は確か×××だったはず・・・などと想いを巡らし、昭和44年卒業後初めて旭川の街に私は辿り着いた。

夕方には、松浦さん(2M、バスケット部先輩)、平間(3E)卒業以来初顔合わせの梅津(3M)が、駅前の「大舟(和食)」で歓迎の宴を催してくれた。久振りに(でもないか?)酔っ払った。

当日の朝、校門脇に「レーザースキャナー」を設置して、「校舎正面の全景」の計測風景を橋本先生ほか諸先生や留学生、などにご披露。皆さんは初めてご覧になるシステムと云うこともあり熱心で、かなり興味を持たれたようだ?!

昼食は同期の3人で学生食堂に移動しランチを摂った。社員食堂などを運営している会社が料理しているだけに味はまずまず、それよりも予想以上に女子学生が多いのには驚かされた。

食後、平間の案内で昼休みの校舎を見学。昔とは別の学校の趣である。(時代と言えればそれまでか)が、最後に覗いた実習工場が「機械卒業」の私には一番懐かしい場所のように感じた次第である。

平成14年度決算報告並びに平成15年度予算

収入の部

科 目	14年度予算	14年度決算	15年度予算	備 考(14年度決算内訳)
前年度繰越金	8,627,537	8,627,537	8,751,839	
新入会費	1,500,000	1,819,240	1,800,000	15,000×122名(手数料差引)
未納会費	300,000	193,440	200,000	15,000×13名(手数料差引)
5年会費	1,000,000	888,620	800,000	6,000×149名(1、6、11、16、21、26期)
雑 収 入	10,000	100	5,000	利息
収入合計	11,437,537	11,528,937	11,556,839	

支出の部

科 目	14年度予算	14年度決算	15年度予算	備 考(14年度決算内訳)	<千円>
会誌発行費	660,000	947,702	800,000	ホームページ267、会誌印刷344、送料293	
総会案内・調査費	520,000	506,945	500,000	作業費133、案内印刷53、送料321	
会議費・旅費	500,000	656,201	500,000	京都総会440、記念講演92、連絡協議会105	
慶 弔 費	20,000	36,392	50,000	吉田前校長他	
事 務 費	50,000	66,918	50,000	理事会案内20、封筒印刷25、他	
学校行事補助	100,000	100,000	100,000	卒業生壮行会	
学生会行事補助	50,000	10,000	50,000	高専祭商品	
支部活動費	450,000	452,940	450,000	4支部×100、総会開催地区50増、振込料	
予 備 費	30,000	0	30,000		
支出合計	2,380,000	2,777,098	2,530,000		

次年度繰越金	9,057,537	8,751,839	9,026,839	収支差額	11,528,937-2,777,098=8,751,839
--------	-----------	-----------	-----------	------	--------------------------------

監査の結果、正当なることを認めます。 会計監査 1M 石羽沢 敏明 1E 三浦 敏章

2004.3 定年退官

物質化学工学科 熊川善紀教授
一般人文科 中村隆彦教授
医 務 室 山路和代看護師

辞 職

物質化学工学科 千葉昌俊助教授

転 出

電気情報工学科 鏡 慎教授(室蘭工業大学工学部)

2004.4 採用

一般人文科 倉持しのぶ助教授
物質化学工学科 千葉 誠助手
医 務 室 南本久美子看護師

訃 報

2003.5.2逝去 1期電気 宗内卓二 氏
2003.6.19逝去 前校長 吉田 宏 先生
2003.12.22逝去 名誉教授 永井慶孝 先生
2004.2.17逝去 名誉教授 秋田順康 先生
2004.5.17逝去 31期機械 専攻科1期 辻 和彦 氏

ホームページを開設して一年、そしてこれから!

HP管理委員長 3M 土井正敏



今年の6月で、本会にHPを開設してから一年強という月日が経ちました。この一年間に約4000回のアクセスをいただきました(カウント開始が遅れたため公表数字と異なります)。無事に一年間HPを運営できたことを会員の皆様と共に喜びたいと思います。

【一年間の更新履歴】

全会員がHPへアクセス出来るとは限らないので、この一年の更新履歴を要約してご紹介しておきます。書込みフリーの掲示板には書込みが多数あり、HPを盛り上げて頂きました。残念ながら書込み者は限られているようですが!(笑)。また、受付ページをアクセスし登録された方が12名います。「同窓会名簿の住所を更新していません。このため案内葉書・会報共に届かないので、住所変更・会報の再送をお願いします」と依頼された方もいます。HPが役に立ったと実感できた瞬間です。

主な掲載記事等

- ・2003/6 2003年会報
- ・2003/9 2003全国総会速報
- ・2004/2 全国高専ロボコン優勝のTV放映動画
- ・2004/3 イベント参加受付機能を新設
- ・2004/4 2003年度卒業式の模様
- ・2004/4 木村名誉教授の出版を祝う会

【本部HPのこれから - HP管理名簿の立ち上げ -】

IT・インターネットに興味がない、キーボードが苦手、或いは設備を持たないのでアクセスできない方も居られるであろうこと等、現実を見据えるとHPを前提に全ての話を進めることに問題を感じない訳ではないのですが、ここでは「HPありき」で書かせて頂きますのでご容赦下さい。

現在、HPでの名簿管理に注力しています。目的はいつでも更新することが出来て、最新情報を保管できる

会員相互での情報補完ができて、互いに参照できる全員を対象とするのは無理であるが紙名簿を代替することで名簿発行経費の節減に寄与(将来構想)

が主な内容です。ただ、同窓会名簿を全てHP管理下に移行するには以下の問題があります。

全員がアクセスできない

機密保護に対する一部会員の不安が解消できていない

ことが主な問題です。この問題解決には多くの時間を要すると思われます。そこで最適解を、最短で見出すには、先ずスタートさせて実物を評価していただくことが近道且つ適切な結論を見出せると信じて、HP管理名簿をス

タートさせることにします。会の総意が得られるまで従来名簿とは独立して運用しますので暫くは自主参加形態となります。

以下、留意点、初期操作に関する情報を掲載しますので、ログインして自己情報を登録して下さい。その他の必要な説明は実際の画面に記載しますので操作時にご参照下さい。

初期ログインについて

下記内容は本会誌でのみお知らせしております。お手元に大切に保管して下さい。(下線部は郵送会報でのみ表示しています。会報が届いていない方はご連絡下さい。)

- ・初期ログインID _____
- ・初期パスワード _____

機密保護について

初期情報、自己設定ID・PWを意図的に外部に漏洩しない限り部外者の名簿参照は実質不可能になっています。

また、名簿参照ログを記録、公開しますので不適切な名簿情報利用に対して調査、および牽制することが可能です。

お願い事項

事前に全会員のIDのみを初期登録してあります。

HPにアクセス出来ない、HPにアクセスしない場合は下記の何れかで連絡して下さい。不正利用防止のため該当IDを一時的に使用禁止状態にしておきます。

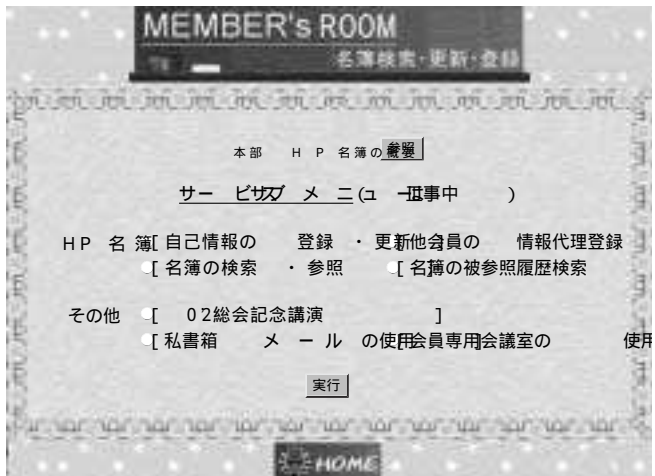
差込葉書で連絡：必要事項を記入し切手を貼って投函

メールでの連絡：admin@kyokusen-dosokai.jp宛て

その他：HPのMINORITYに書込む

なお、使用禁止状態ではMember's Roomへのログインが拒否されるため、他のサービス(下記画面の「その他」)もアクセス不能になりますので予めご承知おき下さい。

<Member's Roomのメニュー画面>



【最後に】

委員一同、見て頂ける本部HP、便利な本部HPに向けてなお一層の努力を続ける所存です。皆さんからの情報、データ提供のご協力を宜しくお願いいたします。

HPに関する改善要望等は常時受け付けております。

BBSまたはMINORITYに気軽にお書き下さい。

では、この続きはHPで・・・!

『花咲(カサ)の会』発足!

旭川副支部長 15M 長谷川 悟



こんにちは、旭川副支部長の長谷川です。今回は、旭川支部便りを私が担当しますのでよろしくお願ひします。

さて、旭川支部も本年度から会を発足しました。名称は『花咲(カサ)』の会と命名。と言えは聞こえがいいですが、単純に集まる居酒屋が「花咲」という名前ですのでそうになりました。(ポキャブラリーがいかにモナイ!)

例会は偶数月の5日(休みの場合は前日)に開催することになり、過去2月、4月、6月と計3回会合が行なわれました。毎回10名程度の参加があり、まずは無難なスタートといったところでしょうか。

まあ、例会と言ってもただの「飲み会」ですので気楽に参加できます。利害関係はなしで、好きなことを語り合うということでは非常にグッド!ただ、「おやじの集まり」と化すことだけは個人的にも避けたい。(笑)

やはり若い方が参加すると雰囲気も良くなると感じます。

とくに女性が参加していただくと華やかさも増しさらにグッド!(個人的な意見が強すぎ!?)
ひたすら若い人の話しをうれしそうに聞く。これが若い方とうまく付き合う極意ですね。間違っても説教するのはいけません!(ついついそうなりますので注意ですよ!)

なんとか『花咲の会』を若い人たちにも浸透させ、同窓会を盛り上げていただくことが私たちの今後の使命(ちょっと大袈裟?)かなと感じたりしています。是非ともこの同窓誌を見ている若い後輩の皆様は「ちょっと一杯」の感覚で参加してくださいね!状況によっては先輩がおごってくれる可能性も大!(多少のお世辞は必要ですが...)

今回は8月5日(木)です。たくさんの皆様に参加してくれることを楽しみにお待ちしております。

ところで、旭川支部は古村支部長を筆頭に非常に元気です。また、本部の諸先輩の協力もあり結束はかたいです。

非常によい先輩の皆様へ恵まれ、私自身も自由に伸び伸びとやらせてもらっています。(改めて感謝申し上げます)

来年は同窓会が旭川開催ということですので、「お

やじパワー」を発揮しながらも若い人がたくさん集まるような、そんな企画を考えていきたいと思ひます。

我こそはと感じる「若き獅子達(姫達)」は、『花咲の会』共々是非ご協力をお願いします。新たな出会いを楽しみましょう。人との出会いで人生は決まりますぞ!

場所:「花咲」旭川市3条6丁目ヨシタケビル1号館2F

電話:0166-29-6799

時間:19時~

『酒峰会』に参加してみませんか

札幌支部長 7M 倉内 栄一

札幌の初夏を飾る「第13回YOSAKOIソーラン祭り」が6月9日から始まりました。今年は国内外から333チーム、約3万3千人の踊り子が北の大地を揺るがし、次の週は「札幌祭り」と続き、にぎやかな雰囲気漂う札幌ですが、全国の同窓会会員の皆様方はいかがお過ごしでしょうか?

札幌支部では、「酒峰会」の定例会(今年は2月2日・4月2日・6月4日・8月6日・10月8日・12月10日・毎回18時頃から)を中心に地道に交流を図っております。去る6月4日には、杵築先生他10名が出席。楽しく和やかな時間を過ごすことができました。札幌周辺の皆様方並びに札幌に私用公用などでこられる方々の参加をお待ちしております。開催場所は、札幌支部のHPに掲載されていますが、JR札幌駅北口ステーションホテル東隣トーカンビルBFの居酒屋「うみぼうず」(011-716-7808)です。

ある教育者の寄稿に、「ロシアの文豪トルストイは、まだ学生だった頃のフランスの作家ロマン・ロランに、力強く書き送った。『人類にとって善および美とは、人間を結合させるところのものです』つまり『結合は善なるもの』であるのだ。私は、若き友のロマン・ロランに書き綴った、トルストイの高貴なその目には、友情深き涙があふれていただろうと、感動した。」とありました。私たち旭川高専同窓生は、激しく変化し、溢れる情報の中で、翻弄されずに「晴れわたる希望の人生の歌を歌い、友を励ます。その歓呼の叫びほど美しいものはない」とのある哲人の箴言を信じて、ゆっくりと自分達のペースで交流を深めて参りたいと思ひます。

最後に、「水を飲むときは、井戸を掘った人を思い出せ」との言葉があります。同窓会の活動場所を作り、育てられた諸先輩に感謝致します。

「癒しとモラルの時代に 生き抜く為に」

西日本支部長 2M 西原 仁



2004年4月
愛妻と大和郡山城での花見

96年に当支部の土台とも言うべき、役員会を立ち上げ、翌年に待望の支部総会を開き、その後8年があつという間に過ぎました。

何もかもゼロからの出発の中、暗中模索・試行錯誤を繰り返し、当時の合言葉は、「何が何でも、21世紀まで続けよう」でした。

過去6回の総会を終え、今年2年振りに7度目の総会を神戸で迎えるに当たり、改めてこれからの高専同窓会と卒業生の在り方を、私なりに考えてみたいと思います。

- 1 定年退職という人生の曲がり角を、後数年で迎える者として

実は、私は卒業後2度転職し、25歳で自営業（宗教家）としての道を歩き始めましたので、定年退職の言葉は死語となりました。しかし、周囲を見ると当然殆どの方々が会社員であり、特に二期生は後4年でその時を迎えます。

「仕事が生き甲斐」という人には、「仕事が無くなる」とか「もう会社に行かなくてもいい」等は到底耐えられない事でしょうが、本当の人生は、そこから始まるのであり、誰であろうと「生涯現役の舞台」で再スタート出来る事に、感謝しようではありませんか。

今から10年以上前のことですが、新聞記事の中で公務員退職後65歳で英検1級に挑戦し（始めは3級程度）、3年かかって見事パスした方の言葉、「It's never too late to learn.（学ぶのに遅すぎるということは決してない）」が紹介され、大いに感動し、励まされた事を思い出します。

又、最近テレビ・講演会・著書等で活躍する日野原重明氏は、93歳で現役の医師であり聖路加国際病院の理事長でもあります。

彼等の生き方を良く見ていますと、突然変異のような奮起ではなく、若い時から備えられ、培われた人生哲学や価値観の延長線上を快走していることが分かります。

私達は、今からでも遅くはありませんので、

趣味であれ、ボランティアであれ、「生涯現役・生涯学徒」を目指し、備えて行こうではありませんか。

「汝ら、世の光となれ」

- 2 技術者から宗教家へ転向した者として

最近、日本を震撼させる二つの大事件がありました。

一つは、佐世保市の小学校で12歳の児童が同級生に惨殺された事です。校内の、それも担任教師や級友の目と鼻の先です。現時点で判明していることは、仲良しだった二人が、パソコンのチャットという極めて現代的な通信がきっかけで仲違いし、殺傷に至ったのですが、その背景に「バトルロワイヤル」という殺人・暴力を奨める映画、更には、密かにネットを通して魔術オカルトのマインド・コントロール（思考操作）を受けていた事です。

これには、親や教師もそのプロテクトが及ばない霊の領域ですので、正しい宗教又は信仰の助けが不可欠ではないでしょうか。

第二に、日本を代表する大企業・三菱自動車グループの幹部連が悪質なりコール隠しを続けた結果、死亡事故を引き起こし、逮捕されたことです。今や、この種の不祥事は珍しくなくなりました。それにしても、社益第一主義に走り、人間として企業人として良心も道義心も失せて、結局は会社も自分も破滅に至るとは、空しさと怒りで一杯です。最高学府を出たエリートと言えども、人の道を踏み外せば、精神的盲目となり、罪の奴隷ともなるのです。目先の利潤や栄達の為でなく、人生という大河の中で、正しい選択を持ちたいものです。

「汝ら、地の塩となれ」

- 3 西日本支部の世話役として

今年最初の役員会で、支部長職勇退を願い出ましたが、お許し戴けませんでした。当初、私個人の目標は、2002年西日本支部初の全国総会を持って退陣の錦を飾りたかったのですが、役員の方から、その時戴いた異口同音の、「No retirement yet!」を励ましの言葉と解釈し、2006年(次期ワールド・カップの年)の総会を目指し、諸氏・諸兄と共に進みたいと思います。

「求めよ、さらば与えられん」

「五月一日の会」ゴルフコンペ

東日本支部
3M 畠山正夫

新緑に燃える碓氷峠のふもと横川（群馬県）で定例の旭川高専同窓生によるゴルフコンペが行われました。

誰が言い出しっぺかわかりませんが7年前、熱海の東日本同窓会で酔いにまかせて言った言葉“毎年5月1日にゴルフコンペをやる”。すきもの同志が賛同し、今年で早くも6回目になりました。

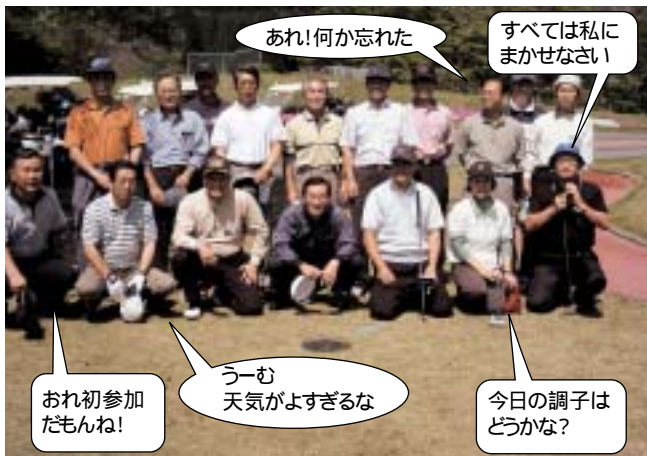
プレー後は一泊し成績発表とともに北海道から取寄せたジンギスカンで舌つつみをうちながら、殆ど身にならない話に花を咲かせているのです。仕事を忘れて楽しむ姿は昔も今も変わらないようで（容姿はかなり変化していますが？）、つい学生時代と錯覚するような会です。

肝心のゴルフのほうですが、今年の5月1日は土曜日にあたり交通渋滞でスタートに間に合わなかったり、ぎりぎりで到着した人など、ハプニングの中でスタートしました。毎年5月1日は好天に恵まれ、言い訳の出来ない条件が整うのですが、今年も例外ではなかったようです。

“カキ～ン”緊張した中での出だしの1打目（ドライバー）は何とも言えませんね。この一打目で、本日の明暗が決まるのでしょうか？

“カンパッテクダサイ”と後続のメンバーに送られ、意気揚々とスタートしていった姿は仕事より真剣のようです。

当会で紅一点の立石さん。この会の話題を「じょうの会」で聞いているうちにゴルフを始めました。今年で2回目の参加ですが、毎日の練習のかがあってスコアがかなりアップしました。（立木の援護もあったようですが？）ゴルフが楽しいのでしょうか、表情が生き生きしているようです。また、この会に参加するた



めにゴルフを始めた山田さん。初めてにしては大変立派な成績で、本人も大変満足しているのでしょうか。!

本人は汗を掻いてのプレーであったとしか感じていないのかも知れません。皆さん初めは同様ですか？

OBをすると猿が拍手をするロングホールがあります。今年は残念ながらギャラリー（猿）は一匹もいなく、皆さん緊張感を欠いたのかOBが非常に少なかったようです。

一泊した翌日は好き者同士が集まり、反省プレーがはじまります。何を反省したかは個人個人の胸のうちとして、このプレーには因縁の対決が継続中なのです。ハーフの最終ホール「最後にカップインした人」がメンバー全員に昼の飲み物をご馳走し、最終ホールでは好きなみやげ物をサービスするルールでした。4年前に両方負担した石川さんとルールを決めた中尾会長との因縁対決がいまだに継続中なのです。

さて、今年はどうだったのでしょうか？メンバーに聞いてください。この話題が、夜の部の大変な話題になっているようです。

プレー後はお楽しみのジンギスカン、やはり北海道の味はうまいです。（皆さんの感想）今年はプレーに参加しなく、夜の部に参加するという変わった人が3名、他にK氏の奥さんが加わり大いに場を盛り上げていただいたようです。

この場は一見どちらが先輩か後輩かはわかりませんが、とにかく皆さんよく話、よく食べ、よく飲んで尽きないものです。（詳細は写真で）

ジンギスカンの後はロッジに戻り、カラオケの合唱となりました。皆さんどこで練習しているのか、生まれながらの特技かわかりませんが大変上手ですね？今年は最後に応援歌がなかったようですが、10月の総会までとっておくのですかね？

最後に猿がこの会の様子を遠くから見ながらつぶやいていました。「この会のレベルはもう少しUPしないかなあ」とのつぶやきを聞きながら、また来年との事で終了しました。

就職して良かった



30M 鈴木 達也

私は、平成7年度第30期生として高専を卒業し、当時札幌にあったある会社(工場)に就職しました。最初の仕事は、工場作業員として大型のプレス機で主にホームタンクを作ることでした。一つ一つの作業は単調でしたが、学ぶこともたくさんありました。

勤めてから2年位経った頃今度は塗装関係の仕事に異動しました。今までは与えられた仕事をこなすだけでしたが異動をきっかけにある程度自分で仕事を組み立て又、後輩に指導する立場になり責任も重くのしかかってきた分やりがいも感じてきました。しかし、就職して3年が経った頃旭川市で技術職を募集していると聞き、ちょうどその頃子供が生まれるということもあって色々考えた末試験を受けてみることにしました。結果、1年目2年目不合格...そして3年目これでだめならあきらめようと思い受けた最後の試験で3年越しの努力が実り合格する事ができました。振り返るとこの3年間は、本当に長く頑張ったと思いましたが何よりそこに家族の協力があったから成し得た事と今でも感謝しております。

そして、平成13年私は25歳で又新たな仕事につく事になった訳ですが、民間企業から公務員、職種も違えば仕事の目的も違う訳で戸惑いを感じました。初の職場は水道局下水処理センターでした。ここでは、処理場にある設備の修繕等の設計をやらせて頂きました。下水処理という言葉は漠然と耳にし、言っていた私にとって驚くこと、学ぶことがとても多かったです。人間として生活していく上で毎日欠かすことのできない事に携わる仕事の重大さ大切さを知ったのはもちろん、人としてここで仕事をさせて頂いた事は私にとってとても貴重な経験でした。

公務員になって3年目、仕事にもなれてこれからはと思っていた矢先に突然の辞令、公務員の第2の職場は都市建築部住宅課、ここでは市営住宅を

管理する仕事をやらせて頂きました。今まで経験のない市民対応、機械を相手にずっと仕事をしてきた私にとって初の人間相手、驚きと緊張の連続、しかし相手にきちんと気持ちが伝わり共感し合えた時の喜びや充実感は、人間相手だからこそうまれる気持ちだったと思います。

そして4年目今度は都市建築部設備課、仕事は公共設備の新築、改修等の設計をやらせて頂ける事になりました。社会に出て9年目、仕事を通して、人を通して、機械を通して...旭川市民ともっと良い関係、もっと良い環境を築いていけたらと思っています。

メールで質問に答えました。

専攻科1期生(1A) 松橋 結城



質問1 苫小牧高専を選んだ理由と、卒業研究テーマ

苫小牧高専は受験のときに最初に合格通知がきたので、公立をやめて進学を決めました。

準学士の資格が取れることや就職先も安定していることも理由の一つでした。卒業研究は「N-アルキルカルボニル-N-フェニルヒドロキシルアミンの合成およびNi-N-オクタノイル-N-フェニルヒドロキシルアミン錯体の核磁気共鳴スペクトル測定」です。

質問2 旭川の専攻科に進学した理由

大学に不合格だったのでどこに行こうかと思っていたときに、専攻科の話を聞いて、高専なので抵抗が無かったことと、一期生ということで興味もあったので決めました。旭川高専での2年間はいい仲間もできて、専攻科に行ってよかったと思っています。

質問3 専攻科での研究内容と、苦労したこと

専攻科での研究内容は「4-(4-トリメチルシリル-3-ブチニル)スチレンのラジカル重合と得られたポリマーの熱挙動」です。初めての専攻科生で苦労するのかなと思いましたが特に苦労したことはなかったです。強いて言えば、旭川は暑くて寒くて環境に慣れるまで大変だったことです。

質問4 旭川ガスを選んだ理由

専攻科の先生に紹介してもらったときに、旭川で働きたいと思っていたので受けてみました。そのときは都市ガスとLPGの違いもわかっていませんでした。

質問5 仕事をしていて良かったことと、困ること

良かったことは自分の力で生活ができるようになった事、自立できることです。

困ることは特にはないです。平日に休みが無いので銀行になかなか行けなくて手続きが遅れることが今一番困ることです。

質問6 同窓会活動に期待すること

なかなか旭川に戻ってこられない人たちに旭川や旭川高専の今を伝えることができるといいのではないかと思います。

質問7 趣味と特技など

趣味も特技もないですが、運動の中ではスノーボードや泳ぐのが好きです。本を読むのも好きだし、買い物に行くのも、ぶらぶらと公園に行くのも好きです。一番好きなのは友達とワイワイ飲みに行くことです。

質問8 10年後・30年後の自分

わかりません。10年後がどうなっているのかわからないから、人生楽しいんだと思います。



35M 伊藤友哉
こんにちは。機械工学科卒業の伊藤です。いつも会報をお送りいただきありがとうございます。また、編集など会報作成に携わった方々ご苦労様でした。

さて、僕は現在卒業して3年が経ちました。今でも学校で学んだことをフルに？生かし日々の生活を送っています。同級生の仲間とも今年の正月に大勢集まってお互いの近況等を語り合いとても楽しい時間を過ごすことができました。楽しい話に花が咲き、最高の(今)・(自分)を感じることができました。改めて考えてみればこれらは日々積み重ねてきた生活一日一日の結果がそういう思いをさせてくれたと思います。

在学生はじめ諸先輩の方々にも日々ベストの一日を送って欲しいと思います。ベストの一日といってもただやりたいことをやればいいのかとは思いません。何かに挑戦する気持ちを持って欲しいと思います。自分も学生時代にはそう思って生活していたとは言えません。今もそういう生活が出来ているかと言えば疑問符が付くといったところです。社会に出ると目の前に立ち足はだかるものがたくさんあります。それに向かうか避けて通るかは本人次第ですが自分は避けて通ってきた道には多少なりとも挑戦しとけば...といった思いが残ってきたように感じます。挑戦することは人間として成長できるチャンスだと思います。

自分だけなのかもしれませんが、社会人になった今、学生時代を振り返ることがよくあります。学生という環境が羨ましく思います。これは社会人にならないとわからないことかもしれません。おそらく当時知識だけでなく人間的にも一番成長出来る時だったと思います。

イラク戦争・少年犯罪の増加など今の社会情勢は不穏な状況にあるなか学校には勉強だけでなく人間として成長できる環境を作りたいと思います。



昭和37年度 旭川市立旭川高等学校



昭和37年度 大館市立大館高等学校

Memorial Photographs
1962



昭和43年度 天来・星野閣下・本校校長



昭和44年度 旭川工専も封鎖
全共闘系 用交組合に反発
学生運動に大急ぎで対応



昭和50年度 道内高等学校体育大会開式

Memorial Photographs 1962

学校便り Vol.78・82より



甲昭59年度 高専祭



甲昭56年度 札幌一高女子部
「第一」部 7人制バレー



昭和60年度 時計塔開工



甲昭53年度 選手会総会



甲昭53年度 旭川市立旭川高等学校
第27回富田日本高等学校門外
「アムン」祭 学校運動大会



甲昭56年度 ロボット大会



甲昭54年度 作品展